

学びの多様化プロジェクト2024-2028

2023年12月

町田市教育委員会

学校に行く子も行かない子も、安心して育つまちだ

00 はじめに

教育長メッセージ

近年町田市においても、不登校等で学校を休んでいる児童・生徒が急増しています。全国的な動向も踏まえると、教育の現場において、学校を休んでいる子どもの学びを考えなければならない時期に来ていると考えられます。

義務教育段階の子どもたちには、将来的に自立に向かい自分自身の人生を歩むため、身に付けなければいけないことがあります。町田市では、学校を休んでいることと学ぶことをいったん分けて考え、すべての子どもたちが学ぶ機会を得られるよう、「学びの多様化プロジェクト2024-2028」を策定しました。

町田市における学びの多様化施策の現在地と未来図である本プロジェクトが、子どもたちの健やかな成長にとって応援として届くことを願っています。

2023年12月 町田市教育長 坂本修一

教育プラン24-28

(教育委員会の上位計画)

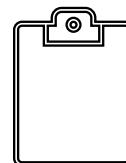
学びの多様化プロジェクト2024-2028

不登校のための対応マニュアル

(学校内での対応に関する具体的指針)

改訂
予定

※「学びの多様化プロジェクト2024-2028」の位置づけ
教育委員会全体の政策について定める「教育プラン」を受け、学びの多様化にかかる施策について集約し、今後の取組を示すものです。



「学びの多様化プロジェクト2024-2028」もくじ

- 00 はじめに
- 01 基本方針
- 02 相談の場づくり
- 03 学びの場の確保
- 04 保護者への支援
- 05 資料：不登校支援の現状と取組・スケジュール・
取組図

裏表紙 不登校支援情報一覧二次元コード

01 基本方針

学校に行く子も行かない子も、安心して育つまちだ

不登校は学校を休んでいる「状態」を表す言葉に過ぎず、子どもたちは不登校というプロセスを経て、それぞれの自立に向かうと考えられます。町田市では、不登校支援は子どもの育ちを支えるプロセス支援であると捉え、相談先や学びの場等に繋ぎ、継続的に支援を行います。そのため、不登校施策の基本方針として「学校に行く子も行かない子も、安心して育つまちだ」を掲げます。

学校に行く子も行かない子も、自分自身の人生を歩むため、その子なりの自立を目指します。そのためには基礎学力だけでなく、人と関わるコミュニケーションスキルや社会生活上必要なソーシャルスキルを身に付けること、適切な進路選択ができること等が必要です。学校を休んでいることで、これらの学びの機会を失うことがあってはなりません。

子どもにやさしいまちづくりに取り組む町田市では、2023年度に「町田市子どもにやさしいまち条例」を制定しました。条例では子どもが健やかに育つため、“子どもが学びたいことを学ぶこと”や“悩みまたは困りごとについて、相談や助言その他の支援を受けられること”が必要だと掲げています。

学校に行かない子どもたちのそれぞれが、異なった状況にあり、必要な学びや支援は異なります。子ども一人ひとりの状況に応じて多様な学びの場を確保し、その学びの場につながるような支援に取り組みます。

02 相談の場づくり ?

子どもが学校をお休みすることが続いたり、「学校に行きたくない」と言ったりしたとき、多くの保護者の方はまず、どこで・何を相談すれば良いか、迷います。一番身近な相談の場は学校ですが、それ以外にも相談したり情報を得たりする場があります。町田市では、登校について相談したり情報を得たりする場づくりに取り組みます。

※最終ページの二次元コードから、町田市における不登校支援情報一覧を掲載するホームページにつながります。

※実線の枠線は2023年度現在既に実施しているもの、二重線の枠線は今後新たにに取り組むものになります。

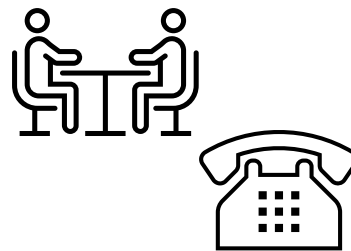
新規

【保護者の会】

保護者同士が同じ立場で話をしたり、情報交換したりするための、定例的な会を2024年度に立ち上げます。

年に1・2回は、講演会形式でフリースクール*情報や進路相談会を実施します。

*フリースクールとは：一般的に、不登校の子どもに対して学習・相談等の活動を行う民間の施設です。町田市では、定期的に市内の関連フリースクールと情報交換の場を設けています。



【教育センター教育相談】

教育センター*の中にある相談機関です。子どもの教育的課題に対して心理専門職が相談に対応しています。来所しての相談と電話での相談があります。学校を通さずに使うことができます。

*教育センターとは：

教育委員会が設置する、特別支援教育や不登校等に対応する部門です。今は木曽東にありますが、将来的に「（仮称）子ども子育てサポート施設」に複合化されます。

町田市の不登校施策を集約、総括する役割を担います

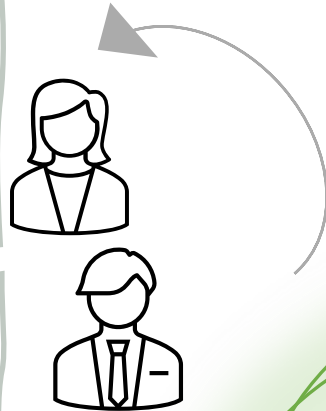


【校内専門職】
スクールカウンセラー

心理に関する専門職で、すべての小・中学校に配置しています。校内での児童・生徒の様子を直接見ることができ、担任の先生等との連携を取りやすい立場にあります。

【校内専門職】
スクールソーシャルワーカー

福祉の専門職です。社会福祉制度や地域福祉に関する情報・知識をもとに、相談に対応します。家庭等に訪問することができます。学校からの要請に基づき、教育センターが派遣します。



学校における相談体制

「不登校対応マニュアル」に基づき、児童生徒の情報を共有しながら、安心して通える学校づくりに「チーム学校」として取り組んでいます。

新規

【不登校支援情報一覧】

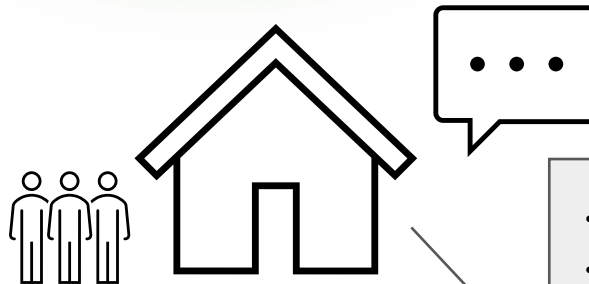
教育センターのホームページに、不登校支援に関する情報を一括して掲載するページを開設します。随時更新し、「そこを見ればすべて載っている」ページを目指します。



新規

【校内専門職】の活用

校内専門職を増員し、相談体制を拡充するほか、専門職による職員向け研修を行うなど、学校内の相談機能を強化します。



- ・学校に行きにくくなっている
- ・欠席が続いている

03 学びの場の確保

子どもの心身の調子が整っていれば、多様な学びの場を考えることもできます。
学校内でも通いやすい場所や、学校以外で学習できる場などがあります。その時々で、子どもにとって必要な場が変わりますので、相談しながら検討します。町田市では、子どもの多様な学びの場の確保に取り組めます。
※最終ページの二次元コードから、町田市における不登校支援情報一覧を掲載するホームページにつながります。

※実線の枠線は2023年度現在既に実施しているもの、二重線の枠線は今後新たにに取り組むものになります。

新規

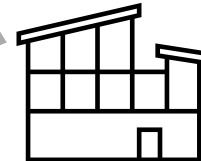
【学びの多様化学校】

不登校児童生徒に配慮した授業を組むことができる学校、「学びの多様化学校」を開設します。授業開始を遅く設定したり、少人数授業で学習の遅れを取り戻したりする等、一人ひとりの状況に応じた学びが可能です。
在籍学校以外へ再チャレンジする場となり、学習も積み重ねやすいので、進路選択の幅が広がります。

2025年度から、「学びの多様化学校」に先行して、教室単位の「分教室型学びの多様化学校」を開設します。



教育支援センター分室を併設し、学びの多様化施策の拠点とします



【教育支援センター】 けやき教室・くすのき教室

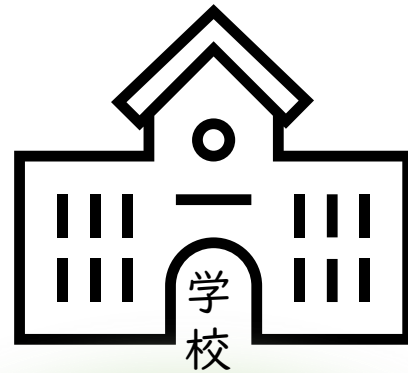
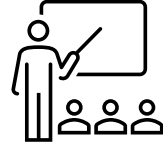
町田市内在住の、不登校または不登校傾向の児童生徒が通う教室です。教育センターの中に設置されています。見学・体験をしてから、通うかどうか決められます。

それぞれの教室では、小集団による学習指導や実技授業、野菜作りやもの作りなどの体験学習、社会生活上必要なスキルを学ぶソーシャルスキルトレーニングなどを行います。
休み時間には友だち同士でサッカーや卓球などして、賑やかに過ごしています。

【校内教育支援センター】

2023年度から、モデル校として中学校4校において、在籍学級以外で学習できる教室を「校内教育支援センター」として運営を始めました。在籍学級に入れなくても、学習指導を受けることができます。

2024年度にニーズ把握や実績を精査し、今後の展開について検討します



新規

【教育支援センター】 オンライン対応

2024年度から、教育支援センターに通う際にオンラインも併用することができるよう、新たに対応を始めます。

新規

【教育支援センター分室】

教育支援センターが市内1か所のため、地域にあって通いやすい、小さな教育支援センターを分室として開設します。2024年度から開始し、実績を見ながら増やします。

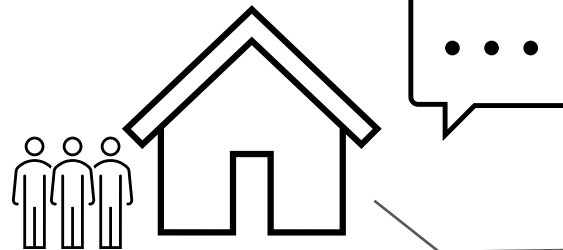
学校における相談体制

「不登校対応マニュアル」に基づき、児童生徒の情報を共有しながら、安心して通える学校づくりに「チーム学校」として取り組んでいます。



授業のオンライン配信

学級状況や授業内容によっては、オンラインでつながることができます。まずは学校に相談してみましょう。



- ・お休みしていると学習が心配
- ・学校以外で通える場がほしい

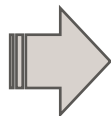
04 保護者への支援

子どもが学校をお休みすることが続いたり、「行きたくない」と言ったりしたとき、保護者の方がどこをどのように利用できるのか、まとめました。

一番身近な相談先は学校ですが、その他にも相談したり情報を得たりできる場があります。

新規

「子どもの登校のことを
相談したい」



新規

情報収集

【不登校支援情報一覧】

※本プロジェクトに合わせて開設。

最終ページの二次元コードから、町田市における不登校関連情報を一括して閲覧できます。

最初の相談は学校へ

- ・元々の本人の様子を知っている
ので、変化に気づきやすい
- ・学習状況や友人関係など、学校
での様子を確認できる
- ・登校したときの配慮をお願いで
きる
- ・担任や養護の先生、管理職、校
内専門職のスクールカウンセラー
等、保護者が話しやすい人を選べ
る
- ・学校の中で居場所を探せる

学校以外での相談

【教育センター教育相談】

- ・子どもが学校への相談を嫌がる
場合もある
- ・学校には言いにくいことも相談
できる
- ・電話相談もできる

学校以外の学びの場を探したい

【教育支援センター】

- ・分室もあり、適切な居場所が探
せる
 - ・進路の相談もできる
- 【学びの多様化学校】
- ・2025年度に分教室型が開始

他の保護者との交流

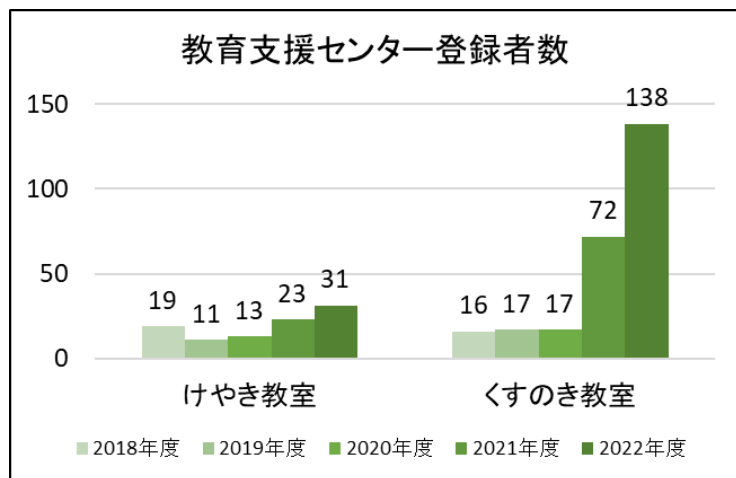
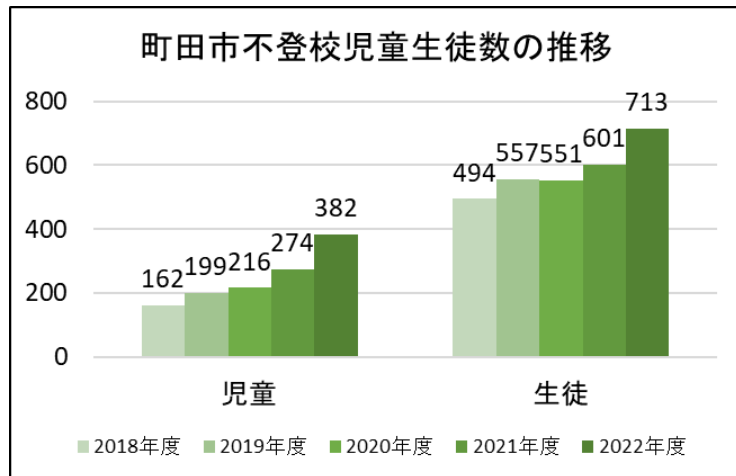
【保護者の会】

※2024年度新たに開始

- ・定例的な会の実施
- ・進路情報の会の実施
- ・フリースクール等関連情
報の提供



05 資料：不登校支援の現状と取組



町田市における年間30日以上欠席の不登校児童生徒数は、増加傾向が続いています。

町田市では従来、不登校児童生徒の学びの場として、教育センター内に教育支援センターを運営して来ました。小学生用のけやき教室と中学生用のくすのき教室があり、いずれも少人数による学習支援や体験活動を実施しています。民間事業者による委託化を進めることで、受け入れ人数を拡大して来ました。

複数のスクールカウンセラーを中学校に配置したり、スクールソーシャルワーカーを増員する等、学校における相談体制の強化にも努めてきました。2023年度には、教室に入りづらい生徒の居場所となる、校内教育支援センターの運営を始めています。

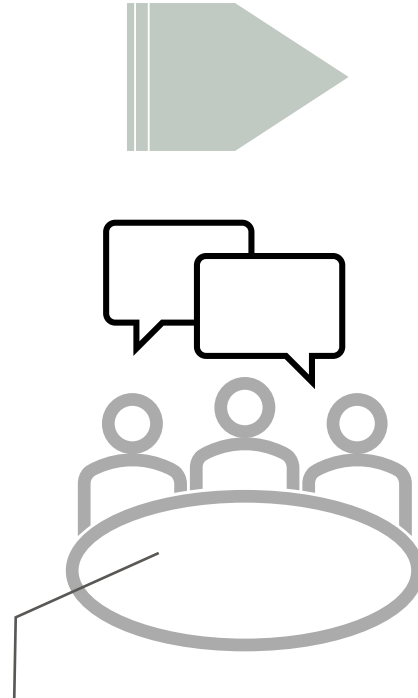
町田市の不登校施策を総括し、今後取り組むべき事項を精査するため、2022年度に有識者による「町田市不登校施策検討委員会」を立ち上げました。本プロジェクトの内容など、子どもの学びの場の確保の取組について、継続して検討しています。

全国的に不登校児童生徒数は増加傾向が続いており、2022年度には前年度から22.1%増加し、過去最多の299,048人となりました。

文部科学省では、不登校により学びにアクセスできない子どもたちをゼロにし、一人一人に応じた多様な支援を行うため、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）」を策定しています。

町田市における 不登校児童生徒支援の流れ

1963年	教育相談開始
1988年	相談学級設置（2020年度まで）
2003年	けやき教室設置
2004年	教育センター設置
2013年	くすのき教室設置 スクールソーシャルワーカー配置
2020年	市独自スクールカウンセラー配置
2022年	町田市不登校施策検討委員会設置
2023年	校内教育支援センター運営開始 「学びの多様化プロジェクト」策定



不登校施策検討委員会設置

学びの多様化に適切に対応するため、2022年度に町田市の不登校施策を集約、総括するための有識者会議として「町田市不登校施策検討委員会」を立ち上げました。

教育や医療、福祉、心理領域等の専門家を含め、学びの多様化を推進するための施策について「学びの多様化プロジェクト」の策定など、子どもたちにとって適切な支援を検討しています。

◎子どもが安心して通える、魅力ある学校であることが大前提 ◎最初にどのような支援が必要かアセスメントすることが大切 ◎市として実際にできることから取り組む ◎居場所だけでなく将来につながる支援が大切 ◎支援から次の支援につながる際の橋渡しを丁寧に ◎保護者支援だけでなく、研修も含めた学校支援が必要 ◎支援についてSNSによる情報発信も有効 ◎子ども自身のニーズ把握が必要

町田市不登校施策検討委員会における意見や、2024年度実施予定の当事者調査の結果を踏まえ、今後も町田の子どもたちの育ちを支える施策を継続的に検討し、取り組みます。

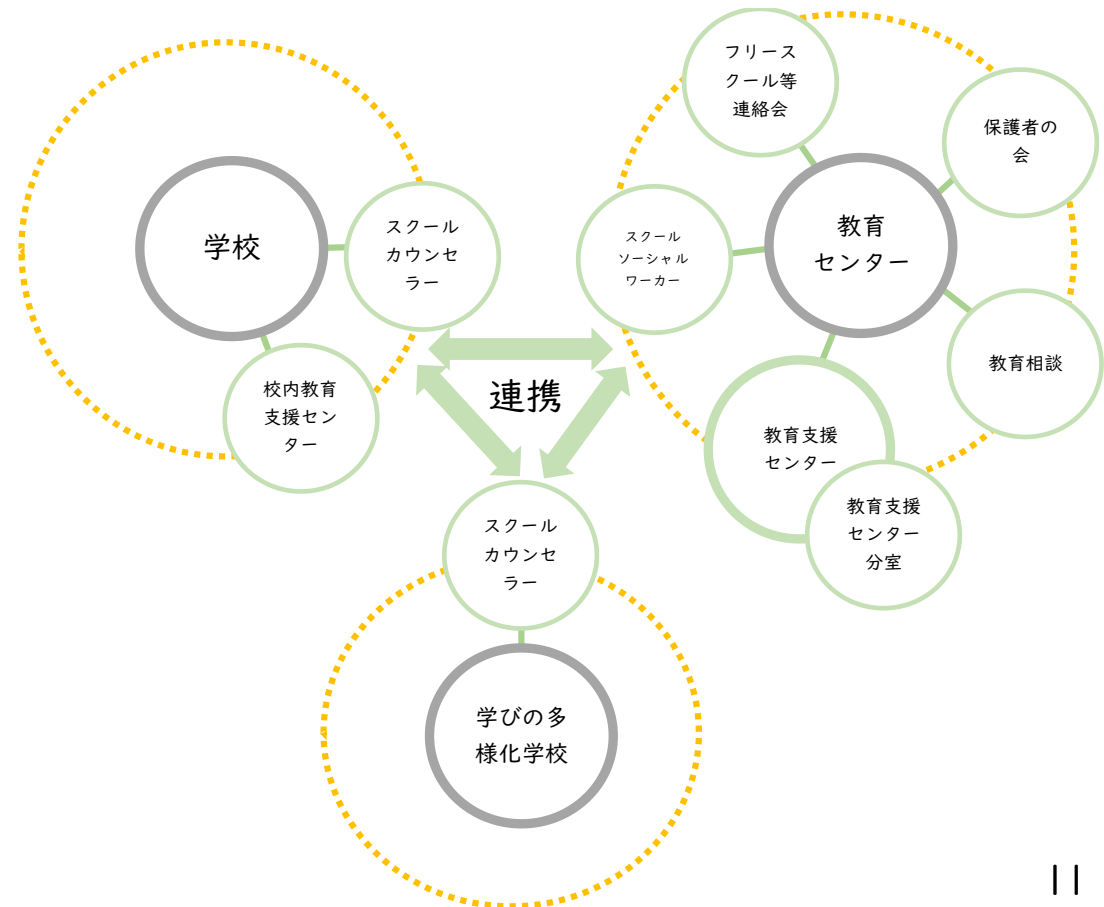
スケジュール

今後の取組予定	
2024年度	教育支援センター分室①開設
	保護者の会開始
	不登校施策実態調査実施
	校内専門職の増員
	校内教育支援センター実績精査
2025年度	分教室型学びの多様化学校開設
	校内専門職の増員
2026年度	学びの多様化プロジェクト改訂
2027年度	教育支援センター分室②開設
	校内専門職の増員
	学びの多様化学校設置委員会設置
2028年度	学びの多様化学校開設準備
	学びの多様化プロジェクト2029-2033策定

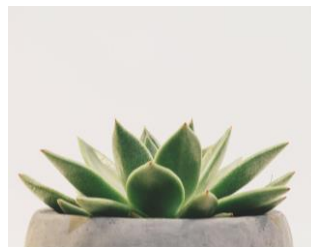
※「学びの多様化プロジェクト」は、5年間を計画期間とし、その間に取り組む事項を定めています。子どもたちに必要な支援・施策は社会情勢も含め、常に変化すると考えられます。本プロジェクトでは学びの多様化に係る施策の状況を常に確認し、中間時に改訂版を策定します。

取組図

※それぞれの取組が、どこで行われているのかを示したものです。教育センターと学校はそれぞれ必要に応じて連携し、子どもたちの成長を支援します。



町田市教育委員会発行



不登校に関する相談先情報

